

withコロナの情報社会論から 日本型データ社会を展望する

庄司昌彦 Masahiko SHOJI

武蔵大学社会学部メディア社会学科 教授
国際大学GLOCOM 主幹研究員
内閣官房オープンデータ伝道師



自己紹介：情報社会研究と実践活動

- 所属：
 - 武蔵大学社会学部メディア社会学科 教授**
(グローバルデータサイエンスコース)
- 学術的活動：
 - 国際大学GLOCOM 主幹研究員
 - (公財) 情報通信学会 理事
 - (一財) 情報法制研究所 上席研究員
- 社会的活動
 - (一社) オープンナレッジファウンデーションジャパン 代表理事
 - (一社) インターネットユーザー協会 理事
 - (一社) MyData Japan 理事
 - マイナンバー制度及び国と地方のデジタル基盤抜本改善WG構成員**
 - 内閣官房 オープンデータ伝道師**
 - 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)
スマートバイオ産業・農業基盤技術 戦略コーディネーター
 - 総務省 地域情報化アドバイザー**
 - 総務省 自治体システム等標準化検討会 座長**
 - 総務省 情報通信白書アドバイザーリーボード
 - 東京都 東京都福祉のまちづくり推進協議会 委員
 - 仙台市 情報アドバイザー
 - ヤフー (株) プライバシーに関するアドバイザーリーボード委員

研究分野

- 情報社会学
- 情報通信政策



GLOCOM

JSICR 公益財団法人
情報通信学会

一般財団法人 情報法制研究所

JILIS



地域資源を十分に活用し、
地域の課題を自分たちで
解決していく社会

科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）人と情報のエコシステム領域
「人文社会科学の知を活用した、技術と社会の対話プラットフォームとメディアの構築」プロジェクト

HITE-Media（ハイトメディア）

ABOUT SYMPOSIUM JOURNAL MANGA CONTACT FOR BOOK

人と情報の「未来」を編むメディア

ハイトメディア

ポストパンデミックのデータ社会を考える
監視とプライバシー、都市と個人、SNSの行く末

ゲスト
水野祐（法律家、弁護士／シティライツ法律事務所）
安田クリスティーナ（MyData Global 理事）
豊田啓介（建築家／noiz）

7.7.TUESDAY YouTube
19:00 ON AIR
～ 21:00

人と情報の
「未来」を編む
メディア

ABOUT

ABOUT SYMPOSIUM JOURNAL MANGA CONTACT FOR BOOK

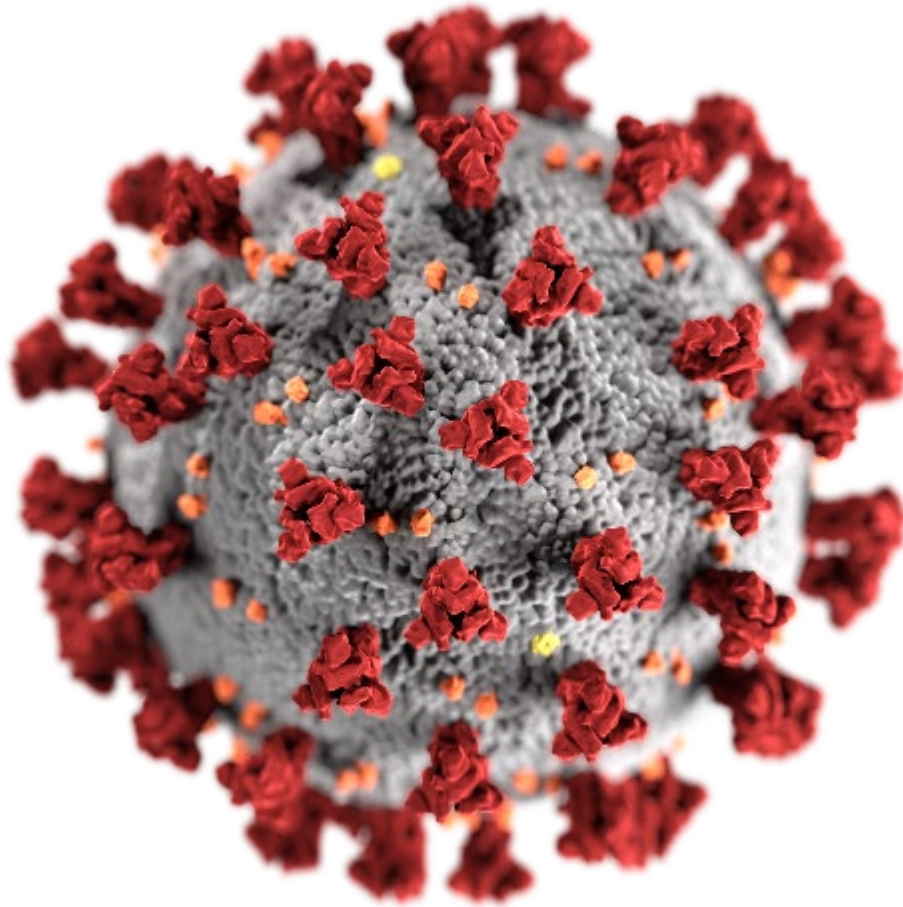
人と情報の「未来」を編むメディア

ハイトメディア

研究者らが選ぶ
ポストパンデミック
に
いま向き合いたい
マンガやアニメ①



「世界史」的な出来事としての新型コロナ



“SARS-CoV-2” / by CDC / Public Domain

- 世界で同時に社会変化が進行
 - 都市封鎖、入国禁止、失業、巨額の経済対策等
 - 世界的な影響は大きく、長引く
- グローバル化が生み出した急拡大
 - グローバルな人の流れに乗る
 - 情報も急速に伝染（インフォデミック）
 - 沈静化後も同様のリスクは存在。対応・共生していくしかない
- テクノロジー活用の加速と依存
 - オンライン前提、デジタル技術フル活用へ
 - 「情報技術と社会の関わり」への理解、考察を活かすことが重要

「情報社会」学

タイラー・コーエン『世界2.0』

米国の経済学者（ジョージメイソン大学教授）。2011年『The Economist』誌で過去10年間で最も影響力のある経済学者の一人としてノミネート、2011年『Foreign Policy誌』「世界の思想家トップ100」。

世界1.0	世界2.0
完全雇用	失業率30%
物理、モノの世界	デジタルの世界
オフィスワークが原則	リモートワークが原則
オフィスは仕事場	オフィスはコネクション、コミュニティ、エコシステムの形成や取引の場
スーツ、ネクタイ、腕時計、名刺が重要	照明やマイク、ウェブカム、自宅オフィス備品が重要
通勤と混雑	自宅と家族
ラストマイル（公共交通機関から自宅）が重要	1マイル（自宅近辺）が重要
レストラン	食料品店と配達
Amazonを分割せよ	Amazonが無いと困る！
スポーツ	eスポーツ
スマホはタバコ（嗜好品）	スマホは空気（必需品）
停滞	変化
デザイン重視	ロジスティックス重視

世界1.0	世界2.0
4ドルもするトースト（高級既成品を重視）	サワードウ作成機（自家製を重視）
Walkscore（駅からの距離を教える不動産サイト）重視	Speedtest（インターネット速度測定サイト）重視
都会	田舎
ふわふわしたたわごとがもてはやされる	実際の問題に直面
テクノロジーが過剰	テクノロジーが不足
現状に満足	行動を起こす
年単位	日単位
政策	実現力
制度や機関を信頼	人間を信頼
ジャスト・イン・タイム（必要な時に必要なだけ）	備蓄
技術への逆風	技術は文明と何十億人ものライフラインの守り手
外向的	内向的

“World 2.0 — “There are decades where nothing happens, and weeks where decades happen” by Tyler Cowen

<https://marginalrevolution.com/marginalrevolution/2020/04/world-2-0-there-are-decades-where-nothing-happens-and-weeks-where-decades-happen.html>

（訳：八田真行「新常態としての「世界2.0」」『mhatta's mumbo jumbo』を元に庄司が編集）

Withコロナの都市を考える論点

1. <働き方> どこでも仕事ができる社会

– 密集・対面モデルから、場所にとらわれない+場所選択モデルへ

- 分人・複属社会へ：短期住民を受入れる地域社会・行政サービスとは？
- どこでも出来るならどこで仕事をするか？離れてもつながりたい場所？
- 誰とわざわざ対面したいか？対面機会を最大限活かす場所・空間とは？

2. <人間関係> 量より質

– 短期・不特定多数モデルから、中長期・特定少数モデルへ

- 不特定多数が自由に交流する機会が高リスクで困難
- 特定少数のグループを作り中長期間濃い関係の中で交流するのが中心
- 特定少数に入れない「孤立」が社会問題に

Withコロナの都市を考える論点

3. <観光・消費> 関係の長さや深さに基づく

– 短期的関係の「爆買い」モデルから、中長期滞在＋関係消費モデルへ

- 短期に大量の客による大量消費を良しとしてきた
- 特定少数の人と長い時間付き合うモデルが柱になるのでは
- 今後はオンラインも活用しながらの関係構築・維持・発展がカギ
- 地元住民や出身者向けのマイクロツーリズム
- 滞在型＝ナイトタイムエコノミー、「学び・人材育成」の可能性

4. <課題解決> ソリューショニズムを見直す

– 「社会課題解決」志向から、「価値発見」志向へ

- 目の前の「課題」への対症療法だけでは本質的な解決にならない
- 右肩下がりで天災が跡を絶たない社会では、その中にも幸せや価値を見つけたす能力が貴重（ペインからゲインへ）
- ソーシャルメディアの空中戦にとらわれずデータに基づき自ら考える

Withコロナの都市を考える論点

5. <情報環境> 充実した情報インフラをすべての人に保障

– 使える人が使うものから、誰もがいつでも使うものへ

- 未来の手段として「使える人が使う」時代は終了
- シビルミニマム（最低限の生活水準）として「インターネット接続・情報端末・情報リテラシー・関係性」を全ての人に保障することが必要に
- 公衆無線LAN、公衆端末、学習・学び直しの機会、人や組織とのつながり

6. <モノ・空間> IoT+シェアリングエコノミーの可能性

– ストックを有効活用し最適な空間・特別な空間を作り出す

- 他人とモノを共有する「シェア」は衛生的でないので終わり...ではなく「しっかり管理したシェア」が求められるのではないか
- モノ・場所の稼働状況を把握し管理するテクノロジーの活用

密集・対面モデルから、場所にとらわれない+場所を選択するモデルへ

分人・複属社会について

分人・複属化

- 複属化

- 日本は「単一社会」（中根千枝）全面参加を要求
- 「「単属者」であり続ける者もいるが、多くは、これらに加えて**好みの縁で繋がった集団にも帰属意識を持つ「複属者」となる**」
『経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針』（1999年経済審議会報告書※堺屋太一他）
- ソーシャルメディアによる「複属」の日常化、働き方や社会的な意識の変化

- 分人 (dividual) = ~~in~~dividual

- 「管理社会について」（ドゥルーズ）
- 分人民主主義 Divicracy（鈴木健）
- 分人主義（平野啓一郎）



人口の奪い合いから「分人・複属」社会へ

• ふるさと納税

- 自治体への寄付＋控除 ≡ 県民・市民税の一部移転
- 自治体は税収、納税者は特産品等を獲得

• ふるさと住民票

- 福島県南会津町がふるさと納税特典として実施
- 2015年、「構想日本」が提言。鳥取県日野町ほか8自治体も参加
- パブコメ参加や広報の受取り、公共施設の住民料金での利用等

• エストニアe-Residency

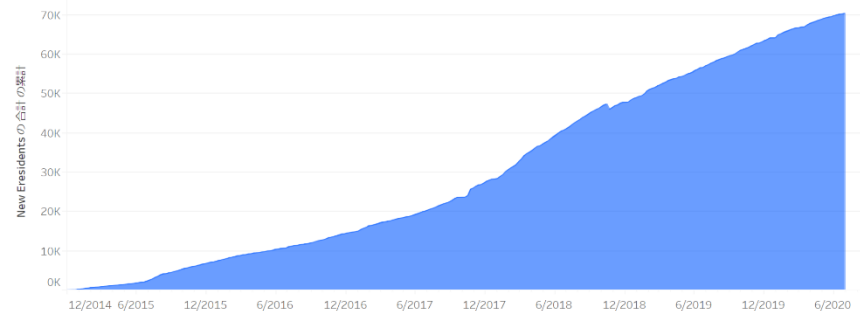
- 2014年12月に開始
- 132万人の国で7万人が取得
- 外国在住者がエストニアとEUのサービスを利用可能に
(外国からの銀行口座開設、会社設立、納税等)

Last update: 29.06.2020

Total number of e-residents

70,344

e-Residents over time



エストニア政府 e-residency ウェブサイトより

- 行政：交流人口増・人口減少対策
- 個人：複数地域への所属意識の具現化、リスク分散
- 多様な働き方、生活様式を認める基盤に

一時的関係の「爆買い」モデルから、滞在型＋関係消費のモデルへ

滞在型観光を 「学び」と結びつける

人間関係にもとづく消費

・ 関係消費

- 生産者・売り手と消費者の間に人間関係や仲間意識があるモノの売買
- 「フラッシュマーケティング」や「爆買い」と対極
- 実際は関係者による応援が多いクラウドファンディングに近い
- ソーシャルメディアによるコミュニケーションが支える
- 売買前後にも文脈を共有し、リスクを分担し、プロセスをとともに楽しみながら生産と消費のサイクル回す
- コミュニケーションが、人間関係の発展、楽しさや満足感、物語形成への参加等の価値を生む



図：東白川村「フォレストスタイル」
(総務省地域情報化大賞・総務大臣賞受賞)

参考：岐阜県東白川村のCATVとEコマース
福島県柳津温泉の花ホテル勉強会

小さくて専門性の高いユニークな大学院



IAAC GLOBAL SUMMER SCHOOL: FINAL PRESENTATIONS/ by IAAC Editor



Copenhagen Institute of Interaction Design/ by CIID

小さくて専門性の高いユニークな大学

スペイン・サンセバスチャン

- 料理を学問として捉え、科学式で表す分子料理法を確立
- 料理のオープンソース化でレベルが向上
- 料理人の社会的地位向上：若者の憧れの職に
- 美食倶楽部の伝統



バスク・クリナリー・センター

– モンドラゴン大学食科学学部
(the Faculty of Gastronomic Sciences)

- スペインで初めて大学レベルのガストロノミー（美食学・食文化）教育、研究、イノベーションを行う
- 2011年、大学と7人のバスクのトップシェフが設立。料理の大学としては欧州で2番目
- 世界で最も影響力のあるシェフ11人が参加。学会設立。
- 学生：400名（各学年100名）、マスターコースも含めると800名程度

バスク・クリナリー・センターと企業

• ボード

- モンドラゴン大学、Eroski（スーパーマーケットチェーン）、Martiko（アヒル関連食品）、ハイネケン、COVAP（農協）、シーメンス、Telefonica（通信）、市、県、州、AZTI（海洋・食品技術）

• コラボレーター

- Insalus（飲料水販売）、州、カヴァ規制協議会（ワイン）、ヴァルデマールワイナリー、Vivancoワイナリー、Seguros Catalana Occidente（保険）、HAZI（州政府の経済開発基盤部門関連組織）、Silestone（インテリア素材）、Schweppes（飲料）

• スポンサー

- Ariake Europe（水産加工）、Bartalent lab（ウェ이터コミュニティ）、Baque（コーヒー）、Giraldo（たら）、Lacor（調理器具）、Hela（調味料）、Campos（加工食品）、Araven（食品関連器具）、Juper（清掃機械）、Laboral kutxa（保険・金融）、Bkn worjwear、Harinas Guria（小麦粉）、Enea（家具）、Robusta（靴）、Salva Master Chef、Thermomix（調理器具）、ICG software、Josper Charcoal Ovens、ICC（調理器具）、Sal de Anana Ananako Gatza（塩）、Koppert Cress（野菜）、Guchilleria NAVARRO（刃物）、Wusthof（刃物）、Eltenedores（レストラン予約）、Gorrotxategi（卵）、Pernod Ricard Bodegas（酒）、Sammic（食品関連機器）、Dignesi（サラダ）、Dastatzen（牛肉）、Valrhona（チョコレート）

企業のメリットは、BCCが開催する国際・国内イベントへの参加・共催・協賛、された国際ミッション等をBCCと編成、学生競技会や奨学金のスポンサーなど

BCCの国際諮問委員会への参加、カスタマイズ

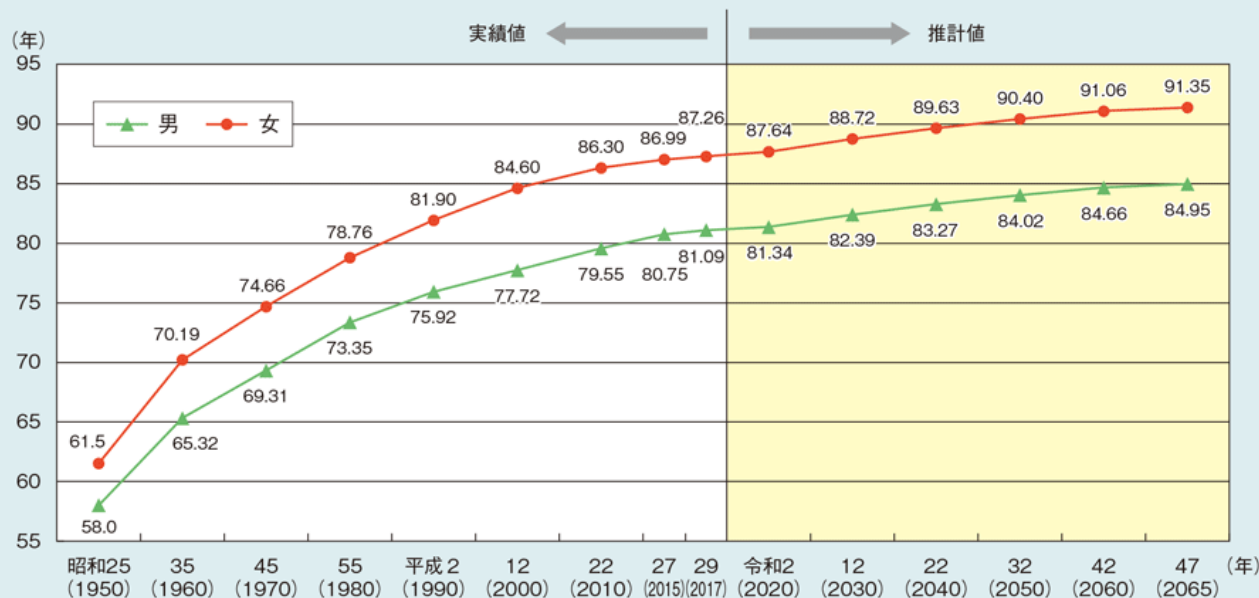
<https://www.bculinary.com/empresas/en/formas-colaboracion>

<https://www.bculinary.com/empresas/en/inicio>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%AD%E3%82%B9%E3%82%AD>

「人生100年」をどこで過ごすか

図1-1-4 平均寿命の推移と将来推計



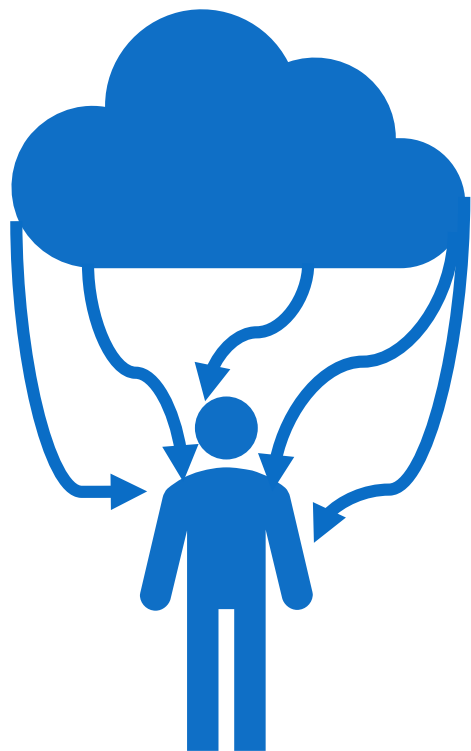
資料：1950年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2015年までは厚生労働省「完全生命表」、2017年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

内閣府『令和元年版高齢社会白書』, 2019年。

- 100年の人生の中で大事なことは普段仕事をしている大都市だけでは得られない
 - 後の仕事に役立ち人生が豊かになるのであれば、中長期の滞在は需要が増すのでは
- 中長期間滞在して学び、学び直しに戻ってきたりするような人と地域の関係
 - 例：パリに料理を学びに行く、ニューヨークにエンターテインメントを学びに行く...等

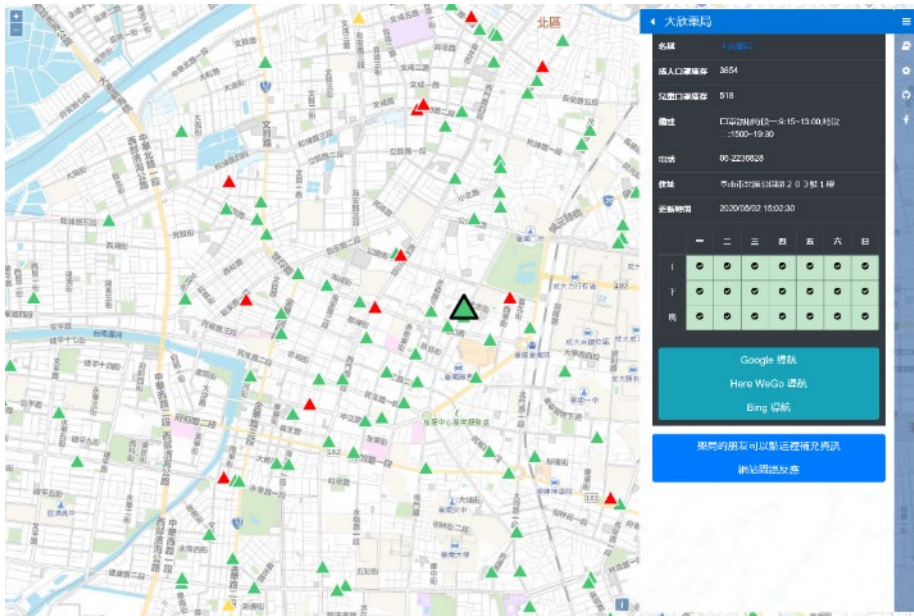
統計や非個人データの活用

個人を丸裸にする vs 環境を丸裸にする



統計や非個人データ等の活用

台湾： マスク在庫データの活用



口罩地圖 by GDG & 好想工作室 <https://mask.goodideas-studio.com/>

• 政府が把握する仕組み

- 保険証のICチップを薬局は事務に活用
- 政府がマスク購入に保険証提示を義務付け。在庫のリアルタイム把握可能に
- 入国管理データと連携。14日以内に中国本土渡航歴がある人の来院を医師に通知

• オープンデータ提供

- 政府はデータをCSVファイルで公
- データは30秒毎に更新
- 2月8日現在、28の地図アプリ、14のLINEアプリ、2つのチャットボット、19の情報提供サービス、4つのモバイルアプリ、4つの音声アプリ等が開発

統計や非個人データ等の活用

Yahoo!MAP「混雑レーダー」



緊急事態宣言の発令前後の混雑状況を「混雑レーダー」で比較



東京都中心部 2月23日(日)14時



東京都中心部 4月12日(日)14時

人流

消費

飲食

宿泊

イベント

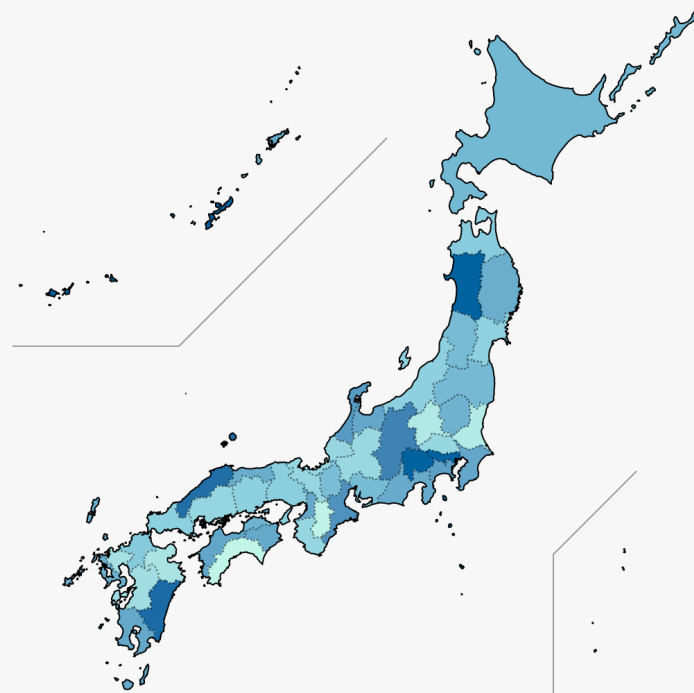
興味・関心

移動人口の動向

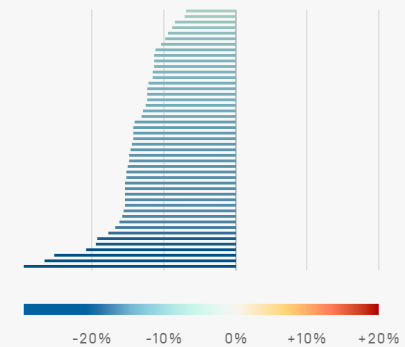
2020年8月24日～30日の前年同週比

時間帯

すべての時間帯 ▼



移動人口の都道府県ごとの分布



新型コロナウイルス感染症が地域経済に 与える影響の可視化

オフィスはいつまでも同じでいいのか？



フジテレビ「サザエさん」より



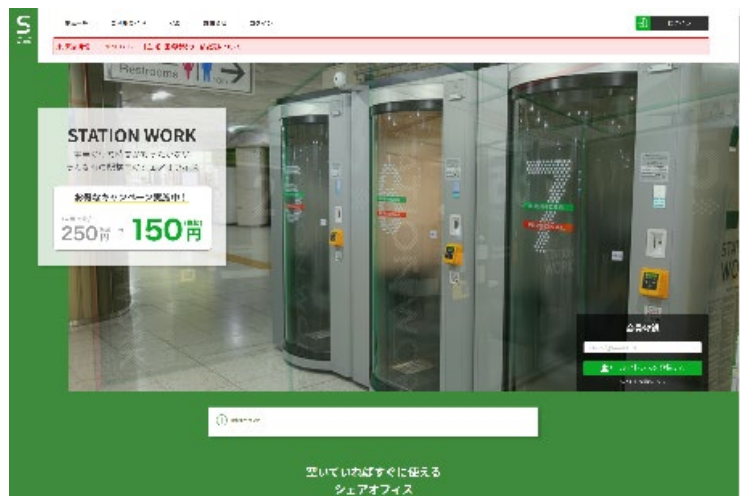
TBS「官僚たちの夏」より

オフィスの機能細分化・外部化・高度化

Activity based Working : 仕事内容に合わせて働く場所（と時間）を柔軟に選ぶ

集中作業用ブース、ブレスト用全面ホワイトボード会議室、リラックスできるソファ、すぐ打合せできるオープンな席、オンライン会議用ブース、セキュリティ部屋...等

ステーションワーク



- JR東日本の駅ナカ×シェアオフィス。
- WI-FIやモニターを完備。15分単位で利用可能。

<https://kamakura-shashoku.machino.co/>

まちの社員食堂



- 鎌倉の企業・団体22社が鎌倉で働く人向けに運営。
- 31店舗が週替わりで朝・昼・晩、健康的でおいしいメニューを提供。交流の創発も目指す。

<https://kamakura-shashoku.machino.co/>

事業継続やパフォーマンス最大化のために社会的な整備が必要ではないか？

「家」の機能細分化・外部化・高度化



「奥にはランドリーやアイロン、ミシン
付きの「まちの家事室」...」

喫茶ランドリーウェブサイトより



Livedoor NEWS (Jタウンネット) より



ドンキホーテは店内に宅配ロッカーと
フリースペースを組み合わせたサブス
クリプションサービスを試行。
(千葉県山武市)

ユックスウェブサイトより
※2019年閉店

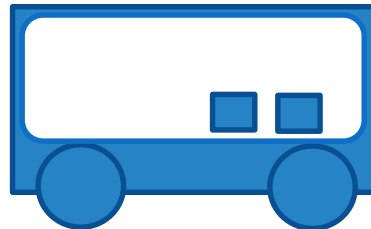
情動的観点から見たシェアリングサービス

1. Identify: 定義を広げ、より細かく識別（区別）する。
2. Monitor: 稼働状況を把握する。
3. Open/Share: 情報活用のため公開・シェアする
4. Match: 多様なニーズと提供者をマッチングする
5. Evaluate: 双方向に評価する

定義を広げる



稼働状況を把握公開し
マッチング



プラットフォーム上の
個人が担い手



→ 地域のさまざまなモノや場所の稼働率を高める

「地域×IT」を考える論点

1. <働き方> どこでも仕事ができる社会

– 密集・対面モデルから、場所にとらわれない+場所選択モデルへ

- 分人・複属社会へ：短期住民を受け入れる地域社会・行政サービスとは
- どこでも出来るならどこで仕事をするか？離れてもつながりたい場所？
- 誰とわざわざ対面したいか？対面機会を最大限活かす場所・空間とは？

2. <人間関係> 量より質

– 短期・不特定多数モデルから、中長期・特定少数モデルへ

- 不特定多数が自由に交流する機会が高リスクで困難
特定少数のグループを作り中長期間濃い関係の中で交流を楽しむしかないのではないか
- 特定少数に入れない「孤立」が社会問題に

「地域×IT」を考える論点

3. <観光・消費> 関係の長さや深さに基づく

– 短期的関係の「爆買い」モデルから、中長期滞在＋関係消費モデルへ

- 短期に大量の客による大量消費を良しとしてきた
- 特定少数の人と長い時間付き合うモデルが柱になるのでは
- 今後はオンラインも活用しながらの関係構築・維持・発展がカギ
- 地元住民や出身者向けのマイクロツーリズム
- 滞在型＝ナイトタイムエコノミー、「学び・人材育成」の可能性

4. <課題解決> ソリューショニズムを見直す

– 「社会課題解決」志向から、「価値発見」志向へ

- 目の前の「課題」への対症療法だけでは本質的な解決にならない
- 右肩下がりで天災が跡を絶たない社会では、その中にも幸せや価値を見つけたす能力が貴重（ペインからゲインへ）
- ソーシャルメディアの空中戦にとらわれずデータに基づき自ら考える

「地域×IT」を考える論点

5. <情報環境> 充実した情報インフラをすべての人に保障

– 使える人が使うものから、誰もがいつでも使うものへ

- 未来の手段として「使える人が使う」時代は終了
- シビルミニマム（最低限の生活水準）として「インターネット接続・情報端末・情報リテラシー・関係性」を全ての人に保障することが必要に
- 公衆無線LAN、公衆端末、学習・学び直しの機会、人や組織とのつながり

6. <モノ・空間> IoT+シェアリングエコノミーの可能性

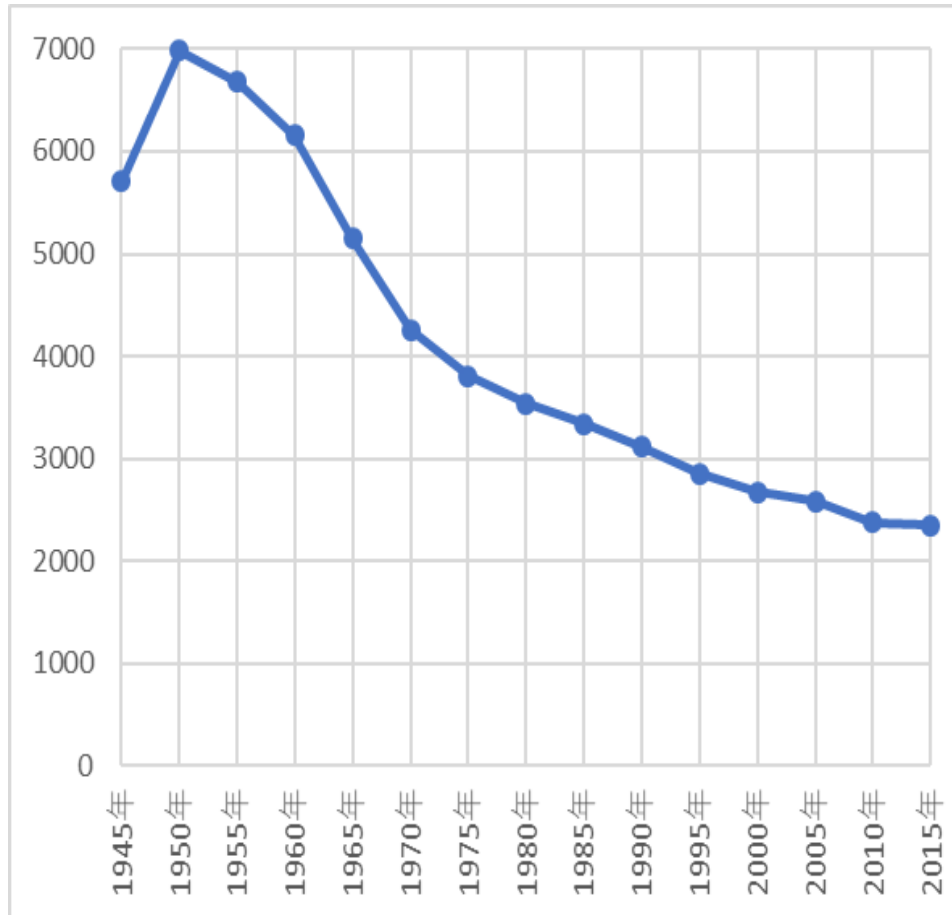
– ストックを有効活用し最適な空間・特別な空間を作り出す

- 他人とモノを共有する「シェア」は衛生的でないので終わり...ではなく「しっかり管理したシェア」が求められるのではないか
- モノ・場所の稼働状況を把握し管理するテクノロジーの活用

最後に

取組みによって地域は変わる

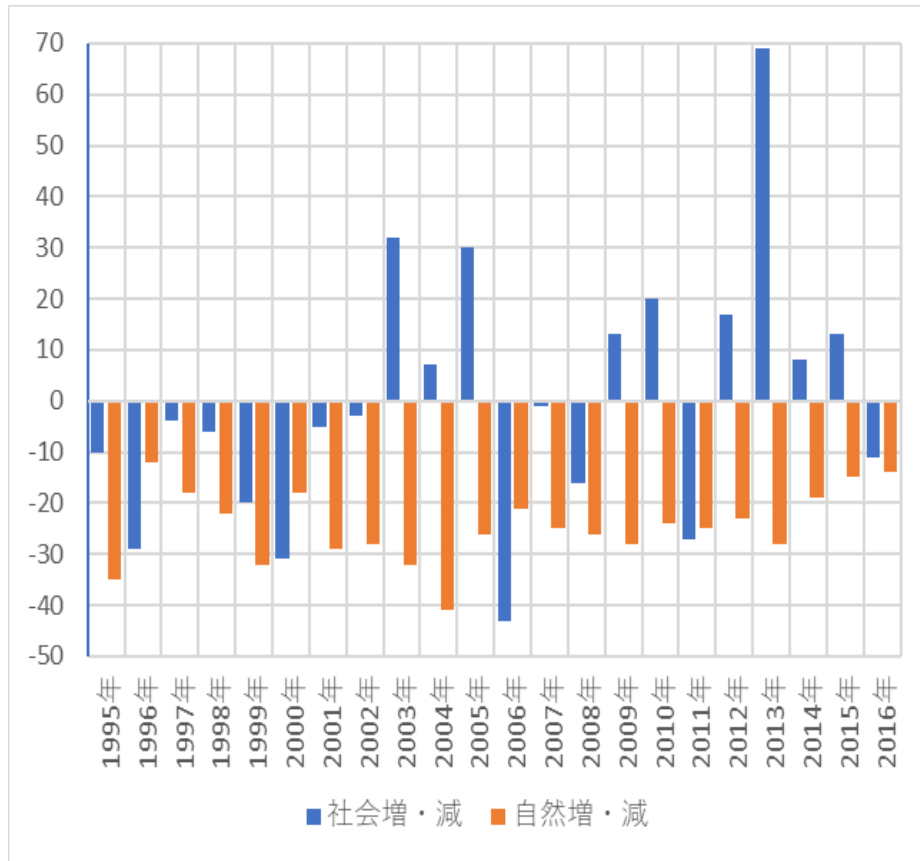
取組みによって地域は変わる



- 隠岐島前高校のユニークな教育と「島留学」や、住民主導のまちづくりで知られる海士町
- 1950年以降一貫して減少しているが、2010～15年は横ばいに近い。
- 2000年時点の予測まで悪化せず
 - 予測：2015年総人口2007人
実際：2015年総人口2352人
 - 予測：2015年高齢化率44%
実際：2015年高齢化率39%

図1：海士町の総人口の推移（人）
筆者作成。データ出典：海士町ホームページ

取組みによって地域は変わる



- 自然減ではあるが社会減は改善
- 年によっては「社会増」＝移住者
- 徳島県上勝町
 - 「葉っぱビジネス」や徹底的なゴミ分別とリサイクルの町
 - 自然減は続いているものの、2000～12年の13年間に6回「社会増」。2019年度も社会増。
- 隣の神山町でも社会増



図2：海士町の人口の社会・自然増減（人）
筆者作成。データ出典：海士町ホームページ